

令和4年度 福島区社会福祉協議会 事業報告

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

わが国では、少子・高齢化が急速に進行し、それに伴う生産年齢人口の減少、地域の活力低下など、社会経済や社会保障に大きな影響を与え、高齢者世帯・単身高齢者の増加、地域とのつながりの希薄化など社会的孤立や生活課題を抱える方々の多様化・複雑化、制度のはざまの問題等が顕著化してきています。

令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、社会的に孤立する人や収入減少等さまざまな状況により地域福祉をめぐる課題が顕著にみられました。

そうした状況下、福島区社会福祉協議会においても、つながり・支え合いができる福祉コミュニティを構築すべく、区内10地域の活動者と連携しながら事業や活動で新型コロナウイルス感染防止に取り組みながら、行事は、参加人数の制限等やリモート(オンライン)を活用するなどさまざまな工夫を重ねて事業を止めることなく実施して参りました。

また、コロナ禍での不安や困りごとについて実態を把握し、地域福祉活動支援、要援護者見守りネットワーク強化事業、地域包括支援センター事業等が地域と連携し支援してまいりました。さらに休業や失業で経済的に困窮した世帯に対して生活福祉資金窓口による緊急小口資金及び総合支援の貸付や生活困窮自立相談支援窓口による住居確保給付金等への対応やフードパントリーの実施など取り組んでまいりました。

福島区では、大型高層マンション等の建設による転入者等により、人口は年々増加しており、子育てや介護の問題、児童・高齢者・障がい者等の虐待問題、子どもの貧困や生活困窮をめぐる生活問題、特殊詐欺被害を含む消費者問題等、近隣や地域との関係の希薄化も含め、地域における福祉課題が増加し、多様化・重複化しておりますが、このような福祉課題について解決に向けて取り組みました。

1. 会 議

令和4年5月20日 監事による会計監査

5月31日 理事会

5月31日 善意銀行運営委員会

6月17日 評議員会

6月24日 理事会

6月24日 地区・校下社協会長会

6月24日 地域ネットワーク委員長会

7月5日 ボランティア・市民活動センター運営委員会

10月12日 福祉基金（植本・小林・手嶋基金）運営委員会

12月23日 理事会

12月23日 地区・校下社協会長会

12月23日 地域ネットワーク委員長会

令和5年3月13日 ボランティア・市民活動センター運営委員会

3月17日 理事会

3月17日 地区・校下社協会長会

3月17日 地域ネットワーク委員長会

3月29日 評議員会

2. 事業概要

(1) 会員の募集

①基本会員（役員・組織構成会員）：92人

②賛助会員 個人：223人 ／ 団体：19団体

(2) 地域福祉活動推進支援

①地区・校下社協活動等への支援

地域の高齢者や障がい者、児童など誰もが地域で安心して生活できるよう地域住民の参加と協力による支えあい、助けあい活動を小

地域で実施する事業推進のための支援を行った。

- ア 地区・校下社協会長会の開催（全３回）
- イ 地域ネットワーク委員長会の開催（全３回）
- ウ 子育てサロン連絡会の実施（１回）
- エ コミュニティサロン連絡会全体会議の参画（全２回）
 - こどもの居場所活動部門会議の開催（全５回）
 - みんなのサロン部門会議の開催（全２回）
- オ 地域福祉コーディネーター連絡会の参画（全１２回）
- カ キャラバン・メイト連絡会の開催（全６回）
- キ 認知症サポーター養成講座の開催（全１２回）
 - 認知症サポーター養成講座受講者数・・・１２１名
- ク 地域福祉活動カレンダーの作製４，０００部
- ケ 地域子育て応援マップの作製５，５００部
- コ 子育て情報紙「フッピィキッズ」４３、４４、４５号の発行支援

②地域福祉推進への参画・推進

こどもの居場所づくり活動訪問支援
（６３回）

③地域支援システムの推進・参画

- ア 高齢者支援部会の開催（４回）
- イ 高齢者虐待防止連絡会議の参画（１回）
- ウ 地域自立支援協議会の参画（３回）
- エ 子育て支援連絡会の参画（２回）
- オ 上福島地域情報交換会（事前打合せ、振り返り含）（３回）

（３）福島区社会福祉施設連絡会の運営

①連絡会の開催（全３回）

②福祉イベント

あいあいまつり（２月１１日）

③社会福祉施設連絡会職員向け研修会

一水会・区社会福祉施設連絡会合同学習会（１２月１７日）

④地域貢献

新型コロナウイルス感染症の感染状況により中止

（４）広報・啓発活動の推進

①機関紙「福島区社協あいあいだより」の発行（タブロイド版４面）

４月に第８６号、８月に第８７号、１２月に８８号を
各２３，０００部発行した。

②子育て情報誌の発信

ア 子育て情報紙『フッピィキッズ』の発行支援（年３回）

イ 地域子育て応援マップの作成・発行（５，５００部）

③インターネットや回覧等による情報提供

ア 区社協ホームページで区社協事業や福祉・ボランティア活動に
関する情報提供

イ 区社協フェイスブックによる情報発信

ウ 区社協公式ＬＩＮＥによる情報発信

エ 各種講座等のチラシ・ポスターの掲示、回覧

④その他

ア 区社協パンフレットの配布

福島区への転入者に配布

（５）ふれあいイベントの開催

区内の社会福祉施設・ボランティア・地域活動協議会などによる日頃の
活動紹介・交流や福祉について啓発を行う目的で、第２０回あいあいまつ
りの開催（２月１１日（祝・土）。参加人数は、８５０人

(6) 福島区ボランティア・市民活動センターの運営

①情報の収集・発信（啓発・広報）

福島区社協だより、広報ふくしま、ボランティア活動情報誌『COMVO』等にボランティア講座受講生募集・イベントの周知・ボランティア活動者募集・助成金周知等の記事の掲載を行った。また、ボランティアに関する情報発信のため、「あいあいボランティアだより」の8月・3月発行。

②事業企画

障がい児スポーツ・レクリエーションひろば

新型コロナウイルス感染症により延期。

NPOや企業の社会貢献活動支援のため、「NPO・企業交流会 in

FUKUSHIMA」を開催。（9月6日(火)、参加者：11団体20名）

③ネットワークの構築

ア ボランティア・市民活動団体連絡会（全2回）

イ みんなのサロン“あいあい”の開催（全12回）

福島区ボランティア・市民活動センター登録ボランティアによるパフォーマンス（演奏や踊り・体操など）の披露

参加者：延べ204人

ウ 福島区コミュニティサロン連絡会の参画（全9回）

内訳：全体会議（2回）、みんなのサロン部門会議（2回）

こどもの居場所活動部門（5回）

④活動への支援

ア 福島区内で活動している福祉に関するボランティアグループ・団体に対して、助成金を交付し活動を支援

a 福島区ボランティアグループ助成金：5団体190,000円交付

b 福祉ボランティア活動応援資金：10団体355,000円交付

c 福祉基金：植本・手嶋基金4団体163,000円、小林基金2団体100,000円交付

イ ボランティアグループへ場所・備品（印刷機、紙折り機、拡大機）等の提供

a 会議・練習等活動のための部屋の利用（16団体利用）

b 活動に必要な資料等作成のため印刷機等の使用（28団体利用）

⑤福祉教育・研修の推進

開催日	対象	内容、共催・協力団体等
5月19日（木）	海老江東小学校 1年生 60名	発達障がいについて 講師：チャオネット
6月3日（金）	八阪中学校 2年生 150名	障がい理解講話・車いす・アイマスク体験 講師：福島育成園
6月22日（水）	福島小学校 6年生 70名	当事者からの講話・車いす体験 講師：個人ボランティア
7月7日（木）	福島小学校 2年生 68名	発達障がいについて 講師：チャオネット
7月11日（月）	海老江西幼稚園 20名	人権について 講師：ま～るま～る
9月30日（金）	玉川小学校 5年生 72名	東北大震災についての語り 講師：個人ボランティア
11月23日（祝・水）	ふれあいまつり （福島） 150名	車いす体験
11月28日（月）	野田中学校 1年生 90名	防災授業 車いす・アイマスク・高齢者疑似体験
11月30日（水）	福島小学校 5年生 90名	聴覚障がいについて 講師：手話サークルふじ
12月13日（火）	福島小学校 3年生 52名	視覚障がいについて 講師：カラフル大阪
1月18日（水）	野田小学校 3・4年生 149名	防災について【カードゲーム等】
1月22日（日）	大開小学校 4年生 55名	東北大震災についての語り 講師：個人ボランティア
1月28日（土）	海老江西小学校 4年生 20名	東北大震災についての語り 講師：個人ボランティア

2月6日(月)	海老江東小学校 3年生 58名	障がい理解講話・車いす・ボッチャ体験 講師：個人ボランティア
2月17日(金)	上福島小学校 全校 271名	防災について【カードゲーム等】
3月1日(水)	八阪中学校 1年生 148名	障がいについての講話・車いす・アイマス ク体験

⑥ ボランティア活動支援（364件）

活動登録・ 需給調整	相談・問合せ 対応	グループ等へ の支援	ボランティア の養成	福祉教育 の推進
74件	154件	84件	10件	42件

⑦ ボランティア活動の紹介（令和5年3月末）

ア 個人・団体登録状況

個人登録者：112人（新規登録者：7人）

団体登録数：49団体（新規登録団体：1団体）

イ ボランティア活動回数件：603件（前年度：540件）

ウ ボランティア活動延人数：5,816人（前年度：4,876人）

⑧ ボランティアの養成・育成

養成講座名	実施日	参加者
ボランティア体験会	10月14日(金)	21人
災害ボランティアセンター運営スタッフ養成講座	① 11月19日(土) ② 11月26日(土) ③ 12月3日(土)	15人
精神保健福祉ボランティア養成講座	① 2月3日(金) ② 2月10日(金) ③ 2月17日(金) ④ 2月24日(金)	29人

⑨ ボランティア総合保障制度（ボランティア保険）受付業務

個人ボランティアおよび諸団体・グループのボランティア活動を対象に

ボランティア活動中の予測しえない事故を補償する『ボランティア活動保険』および、行事中の事故に対応する『ボランティア・市民活動行事保険』等への加入を促し、その受付業務を行った。

ボランティア活動保険	Aプラン	38件	277人
	Bプラン	6件	102人
	Cプラン	9件	215人
ボランティア・市民活動行事保険	I型A区分	173件	7,787人
	I型B区分	0件	0人
	I型C区分	2件	157人
	II型	1件	49人
	III型	7件	631人
非営利・有償活動団体保険		5件	32人
移送中事故傷害保険		受け付けなし	

⑩ 災害ボランティアセンターに関する業務

ア 災害区社協職員研修(全5回)

- ・防災の基礎知識、被災地の実態、災害ボランティアセンター(2回)
- ・災害ボランティアセンター全般(2回)
- ・災害ボランティアセンター立ち上げ、運営訓練(実践)(1回)
- ※災害ボランティアセンタースタッフ養成講座と合同で実施。

イ 専門家と月1回定例でワーキング、勉強会を開催。

9月より毎月第1水曜日(区役所市民協働課 防災担当と連携)

ウ 災害ボランティアセンター運営スタッフ養成講座(全3回)

エ MCA無線通信訓練(12回)

実施日: 毎月第4火曜日実施

オ 玉川小学校防災教育

9月30日(金)

カ 福島区役所避難所訓練(吉野小学校)参加

- 1 1 月 5 日 (土)
- キ 上福島地域避難所開設訓練
- 1 1 月 2 0 日 (日)
- ク 野田中学校防災教育
- 1 1 月 2 8 日 (月)
- ケ 吉野地域避難所開設訓練
- 1 2 月 4 日 (日)
- コ 野田小学校防災教育
- 1 月 1 8 日 (水)
- サ 大開小学校防災教育
- 1 月 2 2 日 (日)
- シ 海老江西小学校防災教育
- 1 月 2 8 日 (土)
- ス 上福島小学校防災教育
- 2 月 1 7 日 (金)
- セ 災害用品の購入 (備品及び備蓄用品)

(7) 障がい者福祉に関する事業

- ①点字本・点訳絵本の作成と貸出・寄贈
- ②福島区広報ふくしまの朗読テープ作成と貸し出し

(8) 地域福祉に関する事業

①車いす貸出事業

区内在住・在勤の方対象に、車いすの貸し出し (2 週間) を実施

貸出し件数 : 1 1 4 件 (保有台数 2 8 台)

②スロープ貸出事業

区内在住・在勤の方を対象に、貸し出し (短期間 : 2 週間程度) を実施。

貸出し件数：1 件（保有台数 6 台）

③福祉用具貸出事業の実施

高齢者疑似体験セット・アイマスク・車いす・車いす用スロープ

貸出し件数：0 件

（ 9 ） 高齢者福祉に関する事業

高齢者敬重訪問…令和 4 年度中に満 1 0 0 歳を迎える高齢者（対象者 1 4 人）に、記念品を贈呈。例年は区社協会長、区長、地区・校下社協会長等と訪問をしているが、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染予防のため対象者宅へ送付した。

（ 1 0 ） 善意銀行の運営

①ボランティアグループ・団体等への払出し 1 0 件

②歳末助け合い運動に対する払出し 4 件

③各種行事等に対する払出し 1 0 件

④寄付でいただいた物品について、子ども食堂、こどもの居場所、コミュニティサロン等へお届けし、活動支援や S D G s の取組みを実施。

月 日	寄贈団体（者）	物 品 名	数 量 等
4/14	個人	精米	30kg
4/19	日本流通産業（株）（くらしモ ア）	食品缶詰（果物、トマト 等）	4,000缶 (100箱)
4/22	ワールドコマース（株）	精肉	500g×30P
4/28	ワールドコマース（株）	精肉	500g×30P
5/12	ワールドコマース（株）	精肉	500g×30P
6/15	大阪信用金庫 上福島支店	食料品（フードドライ ブ）	
7/8	大阪信用金庫 上福島支店	食料品（フードドライ	

		ブ)	
7/12	五大物産(株)	食料品等	約100箱
8/22	日本流通産業(株)(くらしモ ア)	食品缶詰(果物、トマト 等)	約60箱
9/22	大阪信用金庫 上福島支店	食料品(フードドライ ブ)	
11/1	一般社団法人 国際P.R.I.D.E日 本	精米	5kg
12/1	大阪西北ロータリークラ ブ	クリスマスブーツ300 個 フードパントリー用食 品 150名分	
12/14	大阪信用金庫 上福島支店	食料品(フードドライ ブ)	
12/14	ワールドコマース(株)	精肉	500g×30P
1/11	ワールドコマース(株)	精肉	500g×30P
1/11	日本もったいない食品セ ンター	菓子、飲料	20箱
1/25	ワールドコマース(株)	精肉	500g×30P
2/7	大阪信用金庫 上福島支店	食料品(フードドライ ブ)	
2/28	日本流通産業(株)(くらしモ ア)	食品缶詰(果物、トマト 等)	約60箱
不定期 年3回	セブンイレブン	食料品、生活物品、衛生 物品等	1回につきワゴ ン車2台分程度
毎月	西北環境事業センター(区 役所)	フードドライブ	

※令和4年度食品等の寄贈一覧

(1 1) 地域における要援護者の見守り支援ネットワーク強化事業

平成 2 7 年 4 月より「見守り相談室」をあいあいセンターに設置。
地域と行政が要援護者の情報を共有することで、孤立死の予防や災害
時の避難支援、また認知症高齢者等の行方不明時の早期発見を図る。

機能①地域の見守り活動への支援

同意書を対象者に郵送または見守り支援ネットワーカーの訪問に
より同意確認を行った。また、要援護者名簿の整備・管理を行い、
地域での見守り活動が円滑に行えるよう、地域の見守り活動者に
対し支援を行った。

- 対象：① 6 5 歳以上高齢者で要介護 3 以上の方または要介護 2
以下で日常生活自立度Ⅱ以上の方、区要援護者名簿登録者
②身体障がい 1・2 級、視覚・聴覚障がい 3・4 級、音声
・言語機能障がい 3 級、肢体不自由 3 級、知的障がい A、
精神障がい 1 級
③難病患者（医療機器などへの依存度の高い人）

ア 同意確認書の郵送（再発送含む）

第 1 回目	9 月 1 日	4 0 6 人 + 再発送 2 4 2 人
第 2 回目	3 月 8 日	3 9 6 人 + 再発送 2 0 5 人
合 計		8 0 2 人 + 再発送 4 4 7 人 計 1 , 2 4 9 人

イ 返信 5 2 0 人（返信率 6 4 . 8 %）

同意：3 9 6 人 不同意：1 2 4 人

ウ 訪問 4 5 件（回答率 5 1 . 1 %）

同意：1 5 人 不同意：8 人

エ 地域へ要援護者名簿の提供（令和 4 年 1 1 月 1 日発行）

提供先：各地域の地域振興会、地区・校下社会福祉協議会、
民生委員児童委員協議会、地域女性団体協議会

機能②孤立世帯への専門的対応

ア 相談実人員 177人

男性：73人 女性：103人 不明：1人

イ ひきこもり親の会「しまりす会」開催

奇数月第2土曜日（全6回） 参加者数延べ52人

※11月12日（土）に、当事者の声を聞く機会として、
講演会を実施

（講師：NPO法人ウィークタイ 代表 泉 翔 氏）

ウ 引きこもり当事者の会「フリースペース シマリス」の開催

・生活あんしん相談窓口と共催で、家や部屋にこもりがちな
概ね18歳～50歳代の方を対象とした居場所づくり活動
を11月12日（土）からスタート。

・奇数月の第2土曜日に実施（全3回実施）

参加者 延べ1人

エ ヤングケアラーオンラインサロン「なごみ」の開催

・ヤングケアラー当事者が、家族のことや進路のことなどを
相談できる場として、オンラインでのサロンを令和5年1月
から開催。アドバイザーとして当事者である河西 優氏に参加
いただく。

・奇数月の第3土曜日に実施（全2回実施）

参加者 0人（アドバイザーとの打ち合わせとした）

機能③認知症高齢者等の行方不明時の早期発見

ア 発見協力者185件（民生委員・地域活動者・各種団体など）

イ 事前登録者69人（男性：23人 女性：46人）（累計）

ウ 行方不明発見依頼1件

配信依頼：府外1件

発見場所：未発見1件

エ 徘徊認知症高齢者位置情報探索事業（GPS利用）1件（累計）

オ 警察からの支援対象事案情報提供

61件（実人数 男性20人、女性41人）

その他

ア 緊急時安否確認（かぎ預かり）事業の実施

65歳以上のひとり暮らしの方を対象に、事前に家の鍵をお預かりし、緊急と判断された時には鍵を使って家の中に入り安否を確認する事業をモデル地域（海老江西地域）にてモデル実施。

イ 各種会議への参加

自立支援協議会、高齢者支援部会、支援調整会議、地域福祉コーディネーター連絡会、居宅介護支援事業者連絡会へ参加し見守り相談室の業務及び要援護者名簿を活用した見守り活動への協力依頼や周知、広報等を行った。

ウ 各種研修会への参加、開催

新家地域見守り活動者研修会への参加や、地域活動者向け講演会「ヤングケアラーを知っていますか?」、「意外と身近にあるいわゆる「ゴミ屋敷」の実態とその背景」を開催。

（１２）生活困窮者自立支援事業

平成27年4月1日から大阪市より受託し、福島区役所3階に「生活あんしん相談窓口（生活自立支援相談窓口）」を開設。引き続き令和4年4月1日から令和7年3月31日まで3年間受託し事業の実施を行う。

① 相談実績

ア	新規相談受付件数（本人未特定を含む）	624件
イ	プラン策定前支援終了件数（初回スクリーニング時）	209件
a	情報提供のみで終了	190件
b	他機関へのつなぎで終了	18件
c	スクリーニング判断前に中断・終了	1件
ウ	支援決定・確認件数（再プランを含む）	34件
エ	就労支援対象者数（プラン期間中の一般就労を目標）	23件

② 支援調整会議

ア 支援決定・確認件数（再プランを含む） 39件

イ 評価実施件数（再プラン含む） 39件

 a 終結 31件

 b 再プランして継続 8件

 c 中断 0件

ウ 令和4年11月より、ひきこもり当事者の方を対象としたサロン「フリースペースシマリス」を福島区見守り相談室と連携し開設。
（3回）

③ 事業実施・協力

ア 福島区社会福祉協議会イベント「あいあいまつり」で出張相談会を開催。町会長104名、民生委員・児童委員94名へカード型チラシを各10枚ずつ配付した。

また新しく着任された町会長や民生委員に事業説明。

イ 福島区役所保健福祉課主催の支援会議出席し、各窓口担当と事例検討やロールプレイを実施し連携の強化に努めた。

（計5回実施）

④ 周知・広報

ア カード型チラシの追加作成合計10,000枚（周知広報・事業説明）

イ 福島区社会福祉協議会ホームページへ事業内容を掲載

ウ 福島区社会福祉協議会広報紙「あいあいだより」や「かいご・情報ガイド」へ事業内容を掲載

エ 地域福祉コーディネーター連絡会でカード型チラシを配付

オ 福島区内主要駅5か所へチラシを設置

（JR海老江・新福島・野田、大阪メトロ野田阪神・玉川）

カ 区役所内全ての窓口へカード型チラシを設置

キ 地域への周知広報・事業説明

 a 各地域の民生委員会議で全民生委員へ事業周知

 b 地域福祉コーディネーター連絡会に参加

 c 高齢者支援部会（生活支援体制整備事業 協議体会議）に参加し事業説明

 d 各地域の町会長会議で全町会長へ事業周知

(1 3) 生活支援体制整備事業

平成 2 9 年 1 1 月より生活支援コーディネーターを配置し、高齢者一人ひとりが住み慣れた地域で、その有する能力に応じて自立した日常生活を安心して営むことができるよう、多様なニーズや社会資源の実態を把握して、必要なサービスや社会資源を創出するよう努めた。

① ニーズと地域資源の把握・ネットワークの構築

ア 情報収集及び一覧表等の把握と整備

福島区のコミュニティサロンの開催状況を掲載しているコミュニティサロンカレンダーのサイズを変更し、開催状況やサロンの開催内容がより分かりやすい形に更新をおこなった。コミュニティサロンマップを新たに作成した。昨年度に引き続き、地域包括支援担当や見守り相談室、地域支援担当等で地域アセスメント会議・振り返りを開催し、社協職員の視点から小地域ごとの地域特性や課題等の分析・情報の蓄積をおこなった。上福島地域で情報交換会を開催し、地域住民の視点に基づく地域特性や課題を把握・情報の蓄積をおこなった。

イ 協議体の開催（全 4 回）

開 催 日：5 月 1 2 日（木）、9 月 8 日（木）、
1 1 月 1 0 日（木）、3 月 9 日（木）

※対面型、オンラインの両方のハイブリッド型で開催。

② 講座等の開催

ア 「オンデマンドバスを予約しよう～スマホのアプリ活用講習会～」

開 催 日：8 月 2 日（火）、8 月 9 日（火）

内 容：オンデマンドバス・予約方法についての講義、
アプリでの予約の実践等

開催場所：きらめきセンター

参加人数：2 8 人

イ 「アプリや電話で簡単に呼べるmobi～スマホのアプリ活用講習会～」

開 催 日：8 月 3 0 日（火）

内 容：mobi・予約方法についての講義、アプリでの予約の
実践等

開催場所：きらめいセンター

参加人数：21人

ウ お口の中の健康「オーラルフレイル」について

開催日：11月30日(水)

内容：歯科医師・管理栄養士による口腔やオーラルフレイルについての講義、指輪っかチェック・パタカラ体操等の実践

開催場所：きらめきセンター

参加人数：13人

エ 覗いてみませんか「男の茶の湯」のイロハ

開催日：12月10日(土)

内容：茶道についての講義(姿勢やお辞儀、袱紗や懐紙、お菓子・お茶のいただき方等)、実技

開催場所：あいあいセンター 2階多目的室

参加人数：11人

オ 「やりまっせ！ボランティア」(全2回)

開催日：1月28日(土)、2月4日(土)

内容：①有償ボランティア・車椅子操作についての講義、屋外での車椅子操作体

②認知症サポーター養成講座、グループワーク

開催場所：あいあいセンター 2階多目的室

参加人数：13人

③活動の場の発掘・開発

URの集会所や、大型商業施設の屋外スペースなどの空きスペースの情報を把握し、活動の場としての調整をおこなった。旧ダイルムのスペースを活用し、体操やイベントを開催した。

④サービス実施情報の周知

コミュニティサロン・子ども食堂の情報を掲載した福島区コミュニティサロンカレンダーを毎月発行。退職後や転居後の高齢者が地域での活動を把握・参加するきっかけとなるように、新年度初めに実施する事業を企画し、3月に広報周知をおこなう等の周知時期の工夫に取り組んだ。

⑤その他

地域包括ケアに基づくネットワークの構築(4事業連携)を目指し

今年度から「福島区の在宅医療を考える会」に世話人として、生活支援コーディネーターが出席。薬剤師会の勉強会において、４事業（地域包括支援センター、在宅医療・介護連携相談支援室、認知症初期集中推進事業、生活支援体制整備事業）の説明・報告を実施した。アンケート結果から、生活支援体制整備事業の認知度はまだ高くはないため、引き続き地域住民や関係機関に対して、生活支援体制整備事業の周知をおこなっていく。

（１４）地域の福祉活動サポート事業及び福島お助けネットワーク事業

①地域の福祉活動サポート事業

平成２８年度より、各地域のコミュニティセンターや福祉センターに相談窓口「みんなの相談室」を設け、地域事情に詳しい人材を「地域福祉コーディネーター」として配置。相談や情報提供、地域における要援護者の見守りネットワーク強化事業の推進等に取り組んだ。

また、毎月１回事務連絡会を定例開催し、情報交換の他に研修を実施し、資質向上を図った。

ア 相談・安否確認・見守り把握・開室日数など

ａ 相談ならびに安否確認を含む件数… ７ ７ ３ 件

訪問： ３ １ 件 来館： ５ ４ ６ 件

電話： １ ９ ５ 件 その他：メールFAXなど １ 件

ｂ 見守り・状況把握

延べ人数 ７， ３ ２ ２ 人

ｃ 開室日数（延べ日数）… １， ８ ７ ３ 日（※在宅勤務数含む）

（平日 １， ８ ５ ２ 日・休日 ２ １ 日）

イ 地域福祉コーディネーター事務連絡会 実施内容

	開催日	主な内容
１	４ 月 ８ 日	○新任職員紹介、地域の見守り活動情報共有
２	５ 月 １ ３ 日	○見守り相談室より要援護者名簿について説明
３	６ 月 １ ０ 日	○見守り活動者向け研修ヤングケアラーについての講演会
４	７ 月 ８ 日	○「オンデマンドバスについて」の講演会
５	８ 月 ５ 日	○地域の見守り活動情報共有について
６	９ 月 ９ 日	○報告書の変更について説明

7	10月14日	○特殊詐欺研修、あんしんさぽーと事業の紹介
8	11月11日	○見守り活動情報共有、報告書について
9	12月9日	○ゴミ屋敷についての研修会
10	1月13日	○インターネット環境調査報告、必要な機材の聞き取り
11	2月10日	○地域の見守り活動情報共有
12	3月10日	○地域の見守り活動情報共有

ウ 周知、広報

a 「広報ふくしま」に9月号掲載

②福島お助けネットワーク事業

公的サービスの対象とならない軽微なニーズに対して、地域住民の中から、有償ボランティア（サポーター）を募り援助する本事業について、平成28年度より福島区社会福祉協議会が受託し運営を行った。令和3年11月より、利用料金を2ランク制に改定。

車いす介助、家具等の重いものの移動、認知症の対応、技術を要するもの等は30分600円。掃除、買い物代行、蛍光灯取替え、話し相手等は従来通り30分300円。

ア 利用者・サポーター登録数

利用登録者数			サポーター登録者数		
男性	女性	計	男性	女性	計
54人	173人	227人	28人	71人	99人

※令和4年3月末現在と比較して

・利用登録者数は、計△239人減

（男性△56人・女性△183人）

・サポーター登録者数は、計7人増（男性2人・女性5人）

イ マッチング数

合計948件（男性依頼者281件、女性依頼者667件）

ウ サポーター研修・交流会 実施内容

	開催日	主な内容
1	6月10日	「ヤングケアラーを知る」について

		講師：立命館大学大学院生 河西優氏
2	7月8日	研修会「オンデマンドバス」について 講師：大阪メトロ職員
3	10月14日	研修会「特殊詐欺」について 講師：福島警察署員
4	12月9日	研修会「ゴミ屋敷」について 講師：兵庫県立大学環境人間学部 竹端寛氏
5	1月28日	研修会「やりまっせ！ボランティア」① お助けネットワーク説明、車椅子操作について 講師：阪神長楽苑 小家仁氏
6	2月4日	研修会「やりまっせ！ボランティア」② 「認知症サポーター養成講座」について 講師：福島区キャラバンメイト

(15) その他

①日赤会費（社資）事務への協力

②大阪府共同募金会事務への協力

実施期間：令和4年10月1日～令和5年3月31日

内容：街頭募金活動への協力、助成金配分申請・内容の周知

③大阪府生活福祉資金（申込窓口）への協力

新型コロナウイルス感染症により生活困窮による生活資金貸付業務が増加し職員を増員して対応した。

ア 緊急小口資金

電話対応13件 面談回数9回

申込み5件（うち、受理5件）

イ 福祉費

電話対応13件 面談回数9回

申込み2件（うち、受理2件）

ウ 総合支援資金

電話対応11件 面談回数8回

申込み 1 件（うち、受理 1 件）

エ 教育支援資金

電話対応 15 件 面談回数 5 回

申込み 2 件（うち、受理 2 件）

オ 臨時特例つなぎ資金

電話対応 0 件 面談回数 0 回

申込み 0 件

カ 不動産担保型生活資金

電話対応 0 件 面談回数 0 回

申込み 0 件

キ 新型コロナウイルス感染症特例

緊急小口資金申込み 114 件

④安全衛生委員会の開催

労働安全衛生法に基づき、職員の危険及び健康障害の防止を防ぐための基本的な対策について、産業医や衛生管理者等による調査審議を行った。

開催日：4月28日、5月19日、6月30日、7月28日、
8月25日、9月29日、10月27日、11月24日、
12月15日、1月26日、2月9日、3月30日

※開催日は、全て金曜日

⑤ストレスチェックの実施

労働安全衛生法に基づき、ストレスに関する質問票に職員が記入し、職員自身のストレスがどのような状態にあるのか調べる検査を実施。区社協採用職員が受検した。

⑥その他

ア 大阪市社会福祉大会への参加

イ 福島区民まつりへの参加

新型コロナウイルス感染症により中止。

3. 公益事業・介護保険事業・指定管理運営事業

(1) 地域包括支援センター運営事業

高齢者が住み慣れた地域で、尊厳あるその人らしい生活を継続することができるよう、介護予防対策や状態に応じた介護・医療のサービスが切れ目なく提供できることを目指し、地域高齢者の心身の健康維持・生活安定のために必要な援助や支援を包括的に提供する。また高齢者虐待の防止および対応や権利擁護に基づき個人の権利を主体的に行使できるように支援を行う。

① 総合相談支援

様々な相談に的確に対応できるよう、福祉・保健・医療等関係機関と連携し、本人・家族・近隣住民・地域等からの相談に対応。また、下福島ブランチ・野田ブランチに総合相談窓口を委託し、各地域の相談に対応した。

相 談 機 関	延べ相談件数
地域包括支援センター	7, 4 9 7 件 (前年度 5, 5 2 9 件)
総合相談窓口 (下福島・野田ブランチ)	3, 1 3 7 件 (前年度 3, 0 5 2 件)

② 権利擁護・高齢者虐待防止への取り組み

ア 総合相談で、権利擁護の支援が必要な高齢者に対して、保健福祉センターや関係機関と連携をとりながら、成年後見制度等の活用支援を行った。

a 成年後見制度に関する相談 延べ 6 0 件

イ 虐待の疑いのある高齢者に対し関係機関と協力し対応を行った。

a 高齢者虐待に関する相談 延べ 1 2 1 件

ウ 虐待の緊急性・虐待の有無、状況確認、対応計画の策定、終結等の判断を行う「サービス利用調整会議」の参加 延べ 1 4 回

エ 女性会役員対象の虐待講座を実施 (6/16)

③ 予防給付に関するマネジメント

要支援 1・2 の要支援認定者や家族の希望、生活機能等の把握、課題の分析を行い、介護予防サービス計画を作成し地域での生活を支援した。

介護度	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
認定者数 (人)	685	488	515	545	483	483	314
備考	認定総数 3,513人 うち要支援1・2ケアプラン作成委託件数 月平均約687件						

※令和4年10月1日時点における介護保険システムからの抽出情報

④包括的・継続的ケアマネジメント支援

ア 地域ケア会議

- a 医療・介護等の多職種が協働して高齢者の個別課題の解決を図るとともに、介護支援専門員の自立支援に資するケアマネジメントの実践力を高める地域ケア会議を開催した。（12回開催）
- b 要支援者等の生活行為の課題の解決、状態の改善に導き自立を促すQOL（クオリティ・オブ・ライフ：生活の質）の向上を目指して、「自立支援型ケアマネジメント検討会議」を開催した。（13回開催）

イ 総合相談窓口連絡会議

地域の相談窓口（ブランチ）である下福島ブランチ（阪神長楽苑）、野田ブランチ（福島ともしび苑）、認知症初期集中支援チームと毎月1回連絡会を開催し、地域の相談状況や支援内容の検討、介護予防啓発等の情報交換を実施。（12回開催）

ウ 地域における居宅介護支援事業者の後方支援

- a 福島区内で業務を行う、ケアマネジャーの支援のため、相互の情報交換、研修会等を開催。（9回開催）
- b 処遇困難な事例等に関するケアマネジャーへの個別支援
…延べ1,168件

⑤関係機関のネットワークの形成

ア 区内、近隣区の事業者の相互の情報交換・資質の向上と、住民にとってよりよいサービスをめざし、各種連絡会を開催。

- a 福島区ホームヘルパー連絡会（5回開催）
- b 通所サービス連絡会（5回開催）

c 訪問看護事業所連絡会（３回開催）

d 介護ホーム連絡会（５回開催）

e 医療機関相談員連絡会（２回開催）

イ 医師会・歯科医師会・薬剤師会、介護事業者等と連携し「福島区在宅医療を考える会」を共催。

a 在宅医療を考える会 世話人会（４回開催）

b 在宅医療を考える会研修会

開催日	内 容	参加人数
９月７日	講演：医療・介護従事者とともに救命率向上に向けて 講師：福島消防署 救急司令	７１名
１１月２４日	講演・グループワーク 「アレンジ×コミュニケーション×ACP」 講演：かわべクリニック看護師（東大阪プロジェクト）	６２名
３月８日	講演：できていますか？認知症の備え、ご存じですか 認知症カフェ 講師：藤田医科大学医学部 認知症・高齢診療科 教授 武地 一 氏	１４５名

ウ 健康展

a 健康展実行委員会（３回）

b 健康展（10/22参加者４４５名）

エ 関係機関の会議参画

a 在宅医療・介護連携支援コーディネーター連絡会（９回）

b 地域福祉コーディネーター連絡会（１２回）

c 高齢者支援部会（生活支援体制整備事業協議体）（４回）

d キャラバン・メイト連絡会（５回）

e 自立支援協議会（４回）

f 社会福祉施設連絡会（１回）

⑥出張相談会・イベント等の実施

ア 介護保険やその他の相談に関して、各地域コミュニティセンターや福祉センターなどに出向き相談を受け付けた。

- イ 複合した相談等にも対応できるよう、地域自立支援協議会等と連携し、区役所１階にて出張相談会を開催。（１１回実施）
- ウ 大阪厚生信用金庫大淀支店にて、年金支給日午前にランチと連携し、介護なんでも相談会を開催。（５回実施）
- エ イオン薬局と共催し、毎月１５日イオン野田阪神店で、高齢者なんでも相談会を開催。（１０回実施）

地域名	開催日
上福島	11/25(金) シャトー西梅田
福島	11/24(木) メガロコープ福島
玉川	10/19(水) ユニライフ福島
野田	6/9(木) 野田コミュニティセンター 9/17(土) リバーガーデン福島
吉野	11/17(木) 新橋筋商店街５番街
新家	10/13(木) 大開厚生年金住宅
大開	5/17(火)、12/13(火)大開団地
鷺洲	6/7(火)、12/1(木)鷺洲第二団地 6/16(木)、10/6(木)リバーサイドさぎす 7/2(土)鷺洲グリーンシティ
海老江東	11/5(土) グリーンシティＯＳＡＫＡ
海老江西	10/8(土) オレンジフェスタinふくしま (あいあいセンター)

- オ 認知症サポーター養成講座の参画。（６回）
- カ 集合住宅の集会室等、身近な場所での出張相談会を全地域で実施した。（１６回実施）
- キ 地域の課題抽出のため地域活動者との情報交換会を実施（9/29上福島コミュニティセンターで実施）
- ク 認知症啓発イベント「オレンジフェスタinふくしま」（10/8あいあいセンターで実施。参加者７２名）
- ⑦認知症強化型地域包括支援センターの運営

認知症初期集中支援チームを置く認知症強化型地域包括支援セン

ターとして、認知症高齢者を支援する区内ネットワークの充実を図り、大阪市が取り組む認知症にかかる地域包括ケアシステムの構築を推進し認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができることをめざした。

- ア 認知症初期集中支援チーム員会議への参画… 12回
- イ 実務者レベルの会議開催… 3回
- ウ 代表者級会議の開催… 2回

(2)【家族介護支援事業】 家族介護者のつどい(かいご泣き笑い会)

日常介護している家族が、勉強会や施設見学・交流会を行うことにより、介護について一人で悩まないことを目的とした事業を実施。

開催日	内 容	参加人数
5月19日	フラワーアレンジメント講座	14名
7月21日	夏の頭皮ケア講座	9名
9月15日	筋力低下を防ごう自宅でできるトレーニング講座	11名
11月17日	ワークショップ講座 しめ飾り作成	14名
1月19日	プラス乳製品セミナー～楽しく活用、暮らしに備えを～	13名
3月16日	A Iによる歩行解析と歩行改善おすすめ体操	11名

(3)【認知症初期集中支援事業】

認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で、その人らしい生活を継続することができるよう、医師と医療・介護福祉の専門職で構成する認知症初期集中支援チームを地域包括支援センターに設置、早期診断・早期対応に向けた支援体制を構築する。

①チーム員の活動

適切な医療や介護サービス等に結びついていない、認知症または認知症の疑いのある方及びその家族を訪問し、アセスメントや受診勧奨、家族支援等の初期支援を包括的集中的に行い、自立生活のサ

ポートを行う。

② 地域支援推進員の活動

認知症の方を支援するネットワークの構築・推進のため、認知症カフェの運営推進、認知症サポーター養成講座への協力など、認知症になっても暮らしやすいまちづくりのための活動を、様々な機関や団体と連携しながら行う。

(具体的な活動内容)

- ア 医師・包括相談員・チーム員・地域支援推進員で、支援ケースの方向性を検討するため、認知症初期集中支援チーム員会議開催… 12回
- イ 認知症初期集中支援チーム対応ケース（若年性認知症の相談含む）… 41件
- ウ 事業の推進・広報啓発活動実績（案内チラシの配布等）… 138か所（ほか、全町会でチラシ回覧実施）
- エ 関係者会議への参加… 3回
- オ 代表者級会議への参加… 2回
- カ 認知症カフェへの側面的支援… 56回
- キ 社会参加活動の支援… 20回
- ク その他
 - a 認知症に関するパネル展（9/9～9/22福島区役所1階ロビー9/6～10/30福島図書館入口展示ブース）
 - b 認知症啓発イベント「オレンジフェスタinふくしま」（10/8あいあいセンター。参加者72名）
 - c 健康展（10/22区民センター。参加者455名うちiPadによる認知症チェックコーナー81名）
 - d 区民講座「できていますか？認知症への備え、ご存じですか？認知症カフェ」（福島区医師会・在宅医療を考える会共催3/8区民センター。参加者145名）

e 認知症サポーター養成講座の参画（１２回、延べ１００名）

f 地域住民対象の認知症予防講座（６回、延べ４４名）

（４）【オレンジサポーター地域活動促進事業】

認知症地域支援コーディネーターを配置し、認知症の方が住み慣れた地域で安心して暮らしつづけられるよう、認知症の方を見守り、支援する体制の構築を目指すとともに、地域において認知症の方の支援や認知症に関する市民の正しい理解の促進を図った。

① 事業等の広報・周知活動実績…４９件

② 地域の生活支援ニーズと認知症サポーターの把握

ア 地域の生活支援ニーズ把握実施数…３６回

イ 認知症サポーターの把握人数…４６人

③ 企業・団体への講座の受講や登録の推奨

ア オレンジパートナー企業・団体の登録…２件

イ オレンジパートナー社会貢献活動の周知 大阪市社会福祉協議会ホームページに掲載

④ ちーむオレンジサポーターへの後方支援

ア ステップアップ研修受講者数…２人

イ ちーむオレンジサポーターの登録…２件

（５）あんしんさぽーと事業（日常生活自立支援事業）

認知症や知的障がい、精神障がい等により判断能力が不十分な方への日常生活自立支援事業について、地域での利用待機の解消および今後の利用希望追加のニーズにこたえるため、区社協において相談から契約、福祉サービス等利用援助および日常金銭管理・書類等預かりサービスの提供を行なった。なお、福祉サービス等利用援助、日常金銭管理サービス等の提供にあたっては、一体的に実施した。

① 相談及び対応件数 ２，４４４件（前年度１，６２９件）

認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	そ の 他
１，１４７件	４７８件	８１１件	８件

② サービス利用者数（令和５年３月末現在） ３２人（前年度２１人）

③ 委任契約締結件数 18件（前年度3件）

④ 委任契約終了件数 7件（前年度9件）

（６）介護予防事業

①介護予防教室事業（あいあい教室）

月1回、コミュニティセンター、福祉センターで要支援・要介護状態をできる限り予防し自立した生活が送れるよう講座を開催。

実 施 地 域	延べ参加人数		
	4～9月	10～3月	合計
上福島 地域	77	85	162
福 島 地域	65	68	133
玉 川 地域	94	92	186
野 田 地域	91	75	166
吉 野 地域	86	70	156
新 家 地域	55	78	133
大 開 地域	54	52	106
鷺 洲 地域	49	81	130
海老江東 地域	52	49	101
海老江西 地域	53	58	111
合 計	676人 (前年度264人)	708人 (前年度618人)	1,384人 (前年度882人)

②介護予防運動クラブ（区社協独自事業）

ア 介護予防運動クラブ「ベーシック」「スタンダード」

複合型介護予防教室事業の設備や講師のノウハウを活用し、区社協独自の介護予防運動事業を実施した。

実施期間：令和4年5月2日～令和5年3月27日の月・水・金曜日

1クール12回・全3クール

対象者：区内在住の概ね65歳以上の方

定 員：6人（抽選）

参加費：1クール12回 4,000円

【参加人数一覧（延べ人数）】 (人)

	月曜 コース	水曜 コース	金曜 コース	計
ベーシックコース	1 7 3	1 1 0	1 5 6	4 3 9
スタンダードコース	1 2 4	1 2 7	1 0 0	3 5 1
計	2 9 7	2 3 7	2 5 6	7 9 0 (前年度479人)

※三密を防止するため、1クラス最大6名までの定員とした。

イ 介護予防運動クラブ「フリークラス」

介護予防運動の継続的な取り組みの重要性と参加者の継続実施の要望から、フリー教室(全3回)を実施した。

実施期間：令和4年5月10日～令和5年3月14日の火・木曜日

1クール12回・全3クール

対象者：区内在住の概ね65歳以上の方〔定員6人(先着順)〕

参加費：1クール12回 4,000円

【参加人数一覧（延べ人数）】 (人)

	火曜コース	木曜コース	計
フリー教室①	6 5	2 4	8 9
フリー教室②	6 9	2 3	9 2
計	1 3 4 (前年度：159)	4 7 (前年度：126)	1 8 1 (前年度：285)

※三密を防止するため、1クラス最大6名までの定員とした。

③あいあい健康体操教室（区社協独自事業）

健康運動指導士による、椅子に座って行う簡単なストレッチ体操やトレーニングを通して、筋力の維持・向上を図る健康体操教室を実施した。

実施日時：金曜日（第1部、第2部）

実施回数：43回

参加人数：延べ504人

参加費：3,000円（5回分）

介護にならない体づくり ランラン体操

介護予防運動指導員による体操教室

令和5年1月より

水曜日 12回 延べ人数71人 参加費1回600円

(7) 子ども・子育てプラザ事業

令和4年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止に努め、事業の運営を行った。

前年度に引き続き、つどいの広場・児童の自由遊びは利用時間を決め、部屋ごとに定員を設定し、事前予約制とした。利用者の入れ替え時には消毒を実施し、室内には消毒液・ウェットティッシュを常設し、随時消毒できる環境を整えた。

講座については定員を設定し、参加者が密にならないよう配慮したが、講座の内容により開催を中止した。例年参加者が多いイベントについては、少人数で複数回実施し、できるだけ多くの利用者が参加できるよう工夫した。

また、令和4年度は地域の子育てサロン支援や地域交流、アウトリーチのイベント開催を再開、さらにホームページを全面リニューアルし、広報活動に努めた。

①子育て活動支援事業

ア 子育て情報の収集・管理・提供

a 講座等の情報を広報紙とホームページにより広く提供

- ・プラザだよりの発行（乳幼児と保護者対象）・・・12回
- ・プラザだよりの発行（児童対象）・・・・・・・・・・4回
- ・ホームページの情報更新・リニューアル（3月）・・・随時

b 区保健福祉センターで実施される赤ちゃん広場等に出向き、 情報提供

イ 地域の自主的な子育て活動への支援

a 地域の子育てサークルへの活動場所の提供、遊具等の貸し出し

を実施

- ・おもちゃ病院への活動場所提供・・・・・・・・・・ 12回
- ・遊具の貸し出し・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 随時

b 子育て支援ボランティア養成講座・ステップアップ講座の実施

内 容	開催回数	参加人数
地域子育て支援活動者ステップアップ講座	1回	6人

c 地域子育てサロンへの出前講座の開催

- ・出前講座の実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12回

ウ 子育て中の親子の支援

a 子育て中の親子が参加しやすいよう、様々な子育て支援講座を実施。

内 容	開催回数	参加人数	内こども(人)
ベビーマッサージ	12回	109人	55人
ウキウキ身体測定	12回	516人	260人
親子ふれあい遊び	11回	274人	143人
おはなしのじかん	18回	484人	259人
似顔絵を描いてもらおう	6回	72人	36人
英語を楽しもう	3回	90人	47人
マタニティヨガ	3回	4人	
プレママ・プレパパ講座(1回中止)	3回	12人	
2歳児の広場(全3回・2クール・3回中止)	3回	28人	11人
にっこりキッズ	2回	59人	32人
離乳食講座	2回	38人	19人
七夕かざりをつくろう	2回	87人	46人
音楽コンサート	2回	39人	15人
食育講座	1回	6人	3人
腸活でからだを守ろう	1回	27人	14人

クリスマス会	1 回	7 8 人	4 0 人
ファミリー講座	1 回	1 9 人	7 人
こいのぼりをつくろう	1 回	5 4 人	2 9 人
歯のおはなし	1 回	3 1 人	1 6 人
パパのための読み聞かせ講座	1 回	2 9 人	1 6 人
親子クッキング	1 回	2 人	1 人
夏の過ごし方講座	1 回	3 2 名	1 8 名
かわいいうちわをつくろう	1 回	6 4 人	3 2 人
プラザまつり	1 回	7 9 人	4 3 人
交通ルールを学びましょう	1 回	2 4 人	1 3 人
ハロウィンの写真を撮ろう!!	中止		
マナー講座	中止		

エ 児童の健全育成

児童が楽しく参加できるよう、様々な行事を実施。平成 2 9 年度より、7 月 2 1 日から 8 月 3 1 日の夏休み期間中は月曜日と祝日も開設。プラザから遠い地域の児童対象の講座を区民センターにて実施した。

開設日：火曜～日曜（祝日・年末年始等を除く）

7 月 2 1 日から 8 月 3 1 日の間の月曜

開設時間：午前 9 時 3 0 分～正午

※正午～午後 1 時 換気・消毒

午後 1 時～午後 2 時 3 0 分

※午後 2 時 3 0 分～午後 3 時 換気・消毒

午後 3 時～午後 4 時 3 0 分

開設日数：3 0 5 日／年間

利用人数：6, 5 5 2 人／年間（前年度 4, 8 1 7 人／年間）

内 容	開催回数	参加人数
卓球の日	3 1 回	1 4 4 人

けん玉教室	4 回	1 8 人
プラバンでキーホルダー作り	2 回	8 人
クリスマス会	1 回	1 0 人
新春お楽しみ会	1 回	6 人
進級お楽しみ会	1 回	4 人
手作りカーネーションを作ろう	1 回	2 人
ハロウィンイベント	1 回	7 人
自由研究のネタを探そう	1 回	9 人
ミニすだれの壁かざりをつくろう	1 回	5 人
キッズクッキング	1 回	6 人
《こどもボランティア活動》		
おはなしのじかん	2 0 回	5 人
いっしょにあそぼう（こどもの日）	1 回	1 0 人
プラザまつり	1 回	1 1 人

オ 地域関連事業

自主グループである囲碁将棋教室の支援を通じて多世代交流の場へとつなげている。また、併設の老人福祉センターで開催する盆踊りへの参加、老人福祉センターとの共催で実施予定であった節分工作は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。

内 容	開催回数	参加人数
囲碁・将棋教室	1 0 回	2 8 人
きらめきセンターの盆踊りに参加しよう	中止	
節分工作と豆まき	中止	

②ファミリー・サポート・センター事業

大阪市ファミリー・サポート・センター事業の支部業務を実施

活動件数：8 3 9 件（前年度2 3 6 件）

令和 5 年 3 月 3 1 日現在の会員数

依頼会員	提供会員	両方会員
------	------	------

1 4 2 人	4 0 人	5 人
---------	-------	-----

③地域子育て支援拠点事業（つどい広場事業）

ア 子育て親子の交流の場の提供と交流の促進

0歳～就学前の乳幼児とその保護者が、自由に交流できる場所を提供

開設日：火曜～土曜（祝日・年末年始等を除く）

開設時間：午前9時30分～午前11時30分

※午前11時30分～正午 換気・消毒

正午～午後2時

開設日数：305日／年間

利用人数：7, 298人（うち乳幼児3, 846人）／年間

（前年度7, 248人（うち乳幼児3, 926人）／年間）

内 容	開催回数	参加人数	内乳幼児
手形のお誕生日カード	12回	177人	90人
お誕生日会	12回	253人	132人
ちっち☆ひまわり	2回	63人	33人
ブックスタート	12回	137人	48人

イ 子育て等に関する相談、援助の実施

利用者が相談しやすい関係作りに努め、内容に応じて情報を提供し、関係機関との連携により利用者の不安が軽減するよう援助。

ウ 地域の子育て支援関係機関・グループとの連携

地域での子育て支援を実施するため、関係機関・グループと連携し、公共機関等に出向いて、親子交流や地域支援活動等を実施する。

内 容	開催場所	開催回数	参加人数
しゃぼん玉	福島公園	1回	103人
出張ひろば	イオンそよら	2回	25人

出張ひろば	ウイステ	2 回	4 7 人
出張ひろば	セブンイレブン	3 回	2 5 人

エ ブックスタートの実施

福島図書館とボランティアによるブックスタート事業を実施。

④福島区において実施する独自事業

ア 子育て情報誌の編集委員会の開催。

a 子育て情報誌「フッピーキッズ」の編集委員会の開催
(年 3 回発行)。

b 子育てに関する情報提供、「おでかけカレンダー」の発行
(年 1 2 回)。

イ 子育て支援連絡会における事務局

事務局として子育て支援連絡会を運営し開催。第 1 回を令和 4 年 6 月に、第 2 回を令和 5 年 1 月に開催した。

子育て支援関係機関の情報交換等。

(8) 老人福祉センター事業

コロナ禍で、事業計画通りに運営は出来なかったが職員一丸となってこの難局に対応し利用者、職員ともに一人も感染することなく管理運営ができた。指定管理者として 4 年目である。大阪市福島区老人福祉センター(愛称:きらめきセンター)が管理運営する中でコロナ禍での対応に注力した。また、コロナ禍ならではの高齢者一人ひとりが抱える課題や悩みの相談窓口として、区社協(あいあいセンター)と連携して適切な機関につなげた。

令和 4 年度は、一般介護予防の通いの場としての機能充実に重点をおいた。そして一般介護予防に係る講座・行事を「福島区高齢者の生きがいと健康づくり推進事業」に集中させ、年間とおしてつながり目なく一般介護予防の各種プログラムを提供できた。

①一般介護予防の推進事業(福島区高齢者の生きがいと健康づくり
推進事業)

一般介護予防を目的とする健康づくり事業として、健康づくり
3講座を年間30回実施するとともに健康いきいき教室を年間10
回開催した。また、気軽に参加できる健康づくりとして、百歳体操
を毎週2回、年間96回実施し1,749人が参加された。それ
により年々高まる高齢者の健康づくりに対する要望に応えた。

ア 健康づくり講座

事業名	開催回数	参加人数	備考
座ってビクス	10回	204人	6～12月(計10回)
モビバン体操	10回	203人	6～12月(計10回)
健康体操	10回	216人	6～12月(計10回)
合 計	30回	623人	

※感染予防として通常定員の50%で実施

イ 健康・体力づくり行事

事業名	開催回数	参加人数	備考
健康いきいき教室	10回	214人	8月の夏季5回、 1、2月の冬季5回
いきいき百歳体操	96回	1,749人	毎週火曜、木曜
卓球ひろば	29回	404人	一部休止(外壁工 事)
ディスコン広場	71回	282人	一部休止(外壁工 事)
介護予防ダンス	24回	387人	2グループ×12 回/月 計24回
合 計	230回	3,036人	

※感染予防として通常定員の50%で実施

②生きがいづくり事業

高齢者のいきがいづくり、健康づくり、社会参加などを支援するために各種講座やイベントを開催するとともに、同好会活動の立ち上げ・日程調整・広報等を支援した。

ア 生きがい探究の機会の提供

コロナ禍により「3密」を避ける施策から、「お誕生会」「七夕まつり発表会」「きらめき文化祭」

「中央卸売市場施設見学」等、多数人が集まる行事が休止になった。

「盆踊り大会」は世代間交流なしで唯一開催した。

感染予防・対策をしっかりと、「もの忘れ防止と体操」、「脳の健康と体操」を実施する等、コロナ禍に即した企画を実施した。

また、スティホーム応援企画として「大人のぬりえ」を実施。

「チャレンジ数独」と同じく脳トレと認知症予防を兼ねて実施した。

健康・介護予防 「健康セミナー」 (株) 明治	(株) 明治による健康セミナー 「チョコレートの世界へ」	4/20	1回	13名	福島区老人福祉センター クラブ室
生きがい・学習 「きらめき七夕まつり」	期間中、希望者に短冊を配布。 笹に短冊、飾りなどを願いを込めて飾り付けする。コロナ禍により同好会の発表会は中止。	7/1～7/7	7日	30名	福島区老人福祉センター ロビー

生きがい・学習 「風鈴まつり」	酷暑の中、夏の風物詩で少しでも涼しさを感じて頂いた。寄付された風鈴、手作りのモビールなどで館内を彩った。	7/1～9/30	3カ月	多数	福島区老人福祉センター ロビー
生きがい・学習 ペーパークイニング体験講座 「2WAYフォトフレームの世界へ」	細長い紙をクルクル丸めながら、パーツを作り組み合わせて色々な形(花、蝶、動物等)に仕上げて行く。	5/31	1回	12名	福島区老人福祉センター クラブ室
生きがい・学習 ドコモ「スマホ体験講座」	①基本②カメラ 〈全2回〉 自分のスマホで体験。 スマホを使いこなす楽しさを味わってもらう。	・ 5/17、18 ・ 6/9、10 ・ 7/7、8	2日 2日 2日	16名 16名 14名	福島区老人福祉センター クラブ室
生きがい・学習 「救命講習」 福島消防署救命隊	心肺蘇生の中にある胸骨圧迫を AEDの使い方を 中心に学んでもらう。	6/30	1回	11名	福島区老人福祉センター 大広間
健康・介護予防 「ヤクルト健康セミナー」	免疫力低下や睡眠障害とは。 体温調節を促すものとして体温	7/15	1回	12名	福島区老人福祉センター クラブ室

健康を支える体 温	の基本を知って もらう。				
健康・介護予防 漢字DE脳トレ	楽しく遊びなが ら、漢字の魅力 を再発見しても らう。	7/20 10/7	2回	19名	福島区老人 福祉センタ ー クラブ室
生きがい・学習 ブリザーブドフ ラワーアレンジ 講座	生花の一番美し い時期に色素を 抜き取り、特殊 な加工を施し出 来上がったフラ ワーを使用。 わくわくした感 覚を味わっても らう。	7/29	1回	12名	福島区老人 福祉センタ ー クラブ室
生きがい・学習 オンデマンドバ スを予約しまし よう 「スマホアプリ 活用講習会」	スマホアプリで オンデマンドバ スを予約し、活 用することで高 齢者のアクセス の利便性を向上 させて頂く。	8/2 8/9	2回	28名	福島区老人 福祉センタ ー クラブ室
生きがい・学習 アプリや電話で 簡単に呼べる mobi 「スマホアプリ 活用講習会」	楽しくわかる iPhoneのテーマ でソフトバンク スマートフォン アドバイザーに よる講習。	8/30 午前・午後	2回	22名	福島区老人 福祉センタ ー クラブ室

	(好評であり、 追加で実施)				
生きがい・学習 ドコモのスマホ 教室 「災害に備え る」	災害時に、家族 や友人の安否確 認等に役立つサ ービスの活用法 を習得する。	9/27	1回	12名	福島区老人 福祉センタ ー クラブ室
生きがい・学習 ソフトバンクス マホ教室 「初めてのスマ ホ体験教室」	スマホを使いこ なす楽しさを味 わってもらう。	10/21 10/25	2回	30名	福島区老人 福祉センタ ー クラブ室
生きがい・学習 予防救急と応急 手当 「福島消防署」	転倒や転落によ る怪我などを未 然に防ぐ方法の 学習。また、三 角巾などを使っ て身近な応急手 当の方法を学ん だ。	11/4	1回	9名	福島区老人 福祉センタ ー 大広間
生きがい・学習 施設見学 「中央卸売市 場」	大阪の台所であ る中央卸売市場 が果たす役割と 食品が家庭に供 給されるまでの 経路を体験す る。	11/25	1回	20名	大阪市中央 卸売市場

健康・介護予防 お口の中の健康 「オーラルフレイルについて」	加齢による食べこぼしや食事の「むせ」などお口の機能低下に関する知識の習得と改善を学ぶ。	11/30	1回	13名	福島区老人福祉センター クラブ室
生きがい・学習 菅細工 「クリスマスリース」	菅(すげ)という草を使用し、クリスマスリースを作ります。 わくわくした感覚を味わってもらう。	12/2	1回	12名	福島区老人福祉センター クラブ室
生きがい・学習 はじめての俳句	17文字で青春の思いや、生きる哀歌を詠む。	12/10	1回	7名	福島区老人福祉センター クラブ室
生きがい・学習 キャッシュレスってなに？ 大阪府金融広報委員会	キャッシュレス決済を賢く、利用するためのコツを学習する。 クレジットカード以外のデビットカード、スマホのQR決済など。	1/20	1回	21名	福島区老人福祉センター クラブ室
健康・介護予防 「認知症」脳も体もスッキリ	認知症に関する色々な知識や情報を整理しスッ	2/14	1回	23名	福島区老人福祉センター

オレンジチーム	キリしてもら う。				大広間
生きがい・学習 和太鼓体験教室	和太鼓を叩くこ とで怒りを鎮め 爽快感を与え る。 ストレス解消に も大きな効果が 期待される。	2/28	1回	30名	福島区老人 福祉センタ ー クラブ室
生きがい・学習 スマホ体験教室 ソフトバンクア ンドロイド編	高齢者はアンド ロイドが多い 為、限定して使 いこなす楽しさ を味わってもら う。 (福島区役所共 催)	3/7 午前・午後	2回	31名	福島区老人 福祉センタ ー クラブ室
生きがい・学習 「区長との対 談」 きらめきミィー ティング	要望のあった意 見に対して区長 より回答を頂い た。 高齢者との意見 交流を通じて懇 親を深めた。	3/14	1回	27名	福島区老人 福祉センタ ー 大広間
健康・介護予防 ウォーキング体 験教室	ダイエット、筋 力アップ等、健 康増進へのウォ ーキング効果の	3/22	1回	27名	福島区老人 福祉センタ ー 大広間

	ポイントを学んだ。 食事内容、時間帯についても学習した。				
				467名	

※風鈴まつりの人数は除く

イ 同好会・サークル活動支援

同好会の立上げから、同好会間の日程等の調整、会員募集の広報を実施し、同好会の公平で健康な活動を支援した。令和4年3月現在24の同好会が登録。コロナ禍により大阪市より要請があり、3密、大声を出す、激しいスポーツ、飲食に関わる同好会活動は停止。

事業名	開催回数	参加人数	備考
初級囲碁教室	45回	141人	毎週月曜日午前
ネット囲碁	39回	158人	毎週水曜日午後
ダーツ	49回	327人	毎週水曜日午後
折り紙	24回	340人	第2水曜日 第3土曜日
絵画	24回	234人	第2・4木曜日
俳句清和会	11回	67人	第2土曜日午後
詩吟	22回	223人	第2・3土曜日
卓球1 卓球2	0回	0人	第1～4火曜日 第1～4金曜日 第1土曜日（1、2部交互に）

カラオケ 1 カラオケ 2	0 回	0 人	休止(コロナ禍)
民踊	4 5 回	3 7 8 人	第 1 ～ 4 月 曜 日 第 1 ・ 3 木 曜 日
ティーセレモニー	9 回	3 2 人	第 3 木 曜 日
生花(嵯峨御流)	1 0 回	4 5 人	第 4 水 曜 日 (8 月 休 み)
書道細字	1 2 回	1 8 1 人	第 4 月 曜 日
書道	1 3 回	1 2 9 人	第 2 月 曜 日
大正琴	2 2 回	1 5 2 人	第 1 ・ 3 月 曜 日
シニア元気クラブ	2 6 回	5 4 5 人	第 1 ・ 3 金 曜 日
フラダンス・プア	4 5 回	2 4 5 人	第 1 ・ 3 木 曜 日
ゲーム 1 ゲーム 2	6 9 回	5 4 9 人	第 1 ～ 4 木 曜 日 第 2 ・ 4 金 曜 日
笑いヨガ(幸福島クラブ)	8 回	9 6 人	第 3 水 曜 日
シニアフィットネス	7 回	1 1 2 人	月 数 回 水 曜 日 (不 定 期)
リズムセラピー	0 回	0 人	休止(コロナ禍)
合 計	4 8 0 回	3 , 9 5 4 人	

※囲碁・将棋は、毎日月～土曜日の午後より開催。自由参加となっている。年間で延べ約 6 , 0 0 0 人が利用した。

③相談・情報機能の充実

ア 身近な相談体制づくり

高齢者の身近な相談窓口として、「あいあいセンター」をはじめ、関係機関につなげる機能の充実に努めた。利用者との情報

交換のなかで、相談事項の拾い上げを行い、高齢者に係る問題をテーマにした講座を開催した。

イ 公的情報ならびに健康及び生活関連の情報提供

福島区役所、警察署、消防署の公的機関の情報を高齢者に適時、適確に伝えることを目的に当該年度も引き続き、防犯・交通安全、防災・防火等の啓発を図る情報提供を行った。また、コロナ関連情報もタイムリーに提供した。3月予定の区長と高齢者の対話集会「きらめきミーティング」は、第9回を開催し大盛況であった。

④ 利用者の自律したセンター運営の推進

コロナ禍なので、同好会の代表者を一同に介した「利用代表者会」はやめ、「個別代表者打合せ」とした。利用者が自主、自立的にセンター運営に関われるように努めた。

コロナ禍における対応については同好会と意見交換を行い、同意と理解のうえ対応を図った。

⑤ 老人クラブ活動の支援

単位老人クラブの連合組織である区老人クラブ連合会の業務及び同会が実施する行事を支援した。令和4年度は前年に引き続き定例の教養講座交流発表会、カラオケ大会を支援予定もコロナ禍で中止となった。「歩こう会」できらめきセンターだより、チャレンジ数独・大人のぬりえのサンプル等を配布しコロナ禍でのホームステイを支援した。

⑥ 世代間交流事業

区内の保育所・学校園の子どもと高齢者がふれあう行事、イベントを企画もコロナ禍で全て中止となった。

事業名	開催回数	参加人数	備考
お誕生日会 (海老江保育所)	0回	0人	休止(コロナ禍)

盆踊り大会（海老江保育所、 子ども・子育てプラザ）	0 回	2 0 人	休 止（コ ロ ナ 禍）※大人のみのみ
きらめき文化祭 （海老江保育所）	0 回	0 人	休 止（コ ロ ナ 禍）
節分お面づくりと豆まき （子ども・子育てプラザ）	0 回	0 人	休 止（コ ロ ナ 禍）
合 計	0 回	2 0 人	

⑦ 合同事業

事 業 名	開催回数	参加人数	備 考
認知症サポーター教養講座	1 回	2 3 人	2 / 1 4 区社協オレンジ チーム
福島区老連カラオケ大会	0 回	0 人	休 止（コ ロ ナ 禍）
第 9 回きらめきミーティング	1 回	2 7 人	3 / 1 4
合 計	2 回	4 7 人	

⑧ その他

ア 囲碁将棋大会（同好会主催定例会）

囲 碁： 休 止（コ ロ ナ 禍）

将 棋： 休 止（コ ロ ナ 禍）

イ 春・秋カラオケ発表会（カラオケ同好会主催）休 止（コ ロ ナ 禍）

〔実績報告〕

① サービス向上策

施設運営委員会を通じて地域の意見・要望を広く求めるとともに、
同好会等の「個別代表者打合せ」を適宜開催し、利用者の意見をセン
ター運営に反映させてサービス向上に努めた。

② 利用促進策

センター行事等の情報を提供する「センターだより」の内容の充実に努めたのをはじめ、市・区社協のホームページ及び区の「広報ふくしま」、区社協の「あいあいだより」を活用した広報活動の充実に図った。また利用者個々のニーズ把握に努め、行事等の立案・運営に反映する事により、利用率向上に努めた。

③利用者の満足度の把握について

「個別代表者打合せ」を通じて意見を直接収集するとともに、アンケートの適宜実施によってニーズの把握に努めた。

④平等利用の確保について

「施設運営委員会」を開催し、意見・助言を聴取して平等・公正な運営に努めた。

⑤他施設との連携、地域との連携、市民・NPOとの協働等

併設の海老江保育所、子ども・子育てプラザをはじめ、福島区食生活改善推進員協議会、福島区健康推進協議会と連携した恒例のお誕生日会はコロナ禍で残念ながら中止となった。その中で高齢者施設運営協議会との情報共有と連携に努めた。

⑥ 建物の維持管理の取組みについて

3年かったが令和4年度に蛍光灯の全数をLED化することができた。51年ではじめて福島区福祉複合館全体の外壁工事を行った。半年の工期であったが事故もなく終了した。また、日常の清掃時の点検を基本に定期的に館内巡視を実施し、引続き軽微なものについては職員が修繕を行った。

⑦ 危機管理について（事故防止等安全対策、火災時緊急時の対応）

当センターは、区役所との協定によって災害時に福祉避難所として供用するため、12月3日にはあいあいセンターと連携して大規

模災害を想定した災害訓練に参加、福祉避難所開設の実地訓練を行った。

⑧ 個人情報の保護・情報公開について

「大阪市個人情報保護条例」、「大阪市情報公開条例」をはじめ、当協議会の「個人情報保護規定」により、情報の漏洩や利用証の管理を的確に行い、引き続き個人の権利・利益の侵害防止に努めた。

⑨ 過去４ヵ年度の利用者数の推移 (人)

	令和 元年度	令和 ２年度	令和 ３年度	令和 ４年度
年間利用者 (延べ人数)	２ ７ , ８ ６ ６	１ ２ , １ ４ ５	１ ３ , ９ ８ ２	１ ９ , ５ ８ １
月平均 (延べ人数)	２ , ３ ２ ２	１ , ０ １ ２	１ , １ ６ ５	１ , ６ ３ ２
一日平均 (延べ人数)	１ ０ ５ . ５	５ ３ . ９	５ ５ . ５	６ ６ . ８

※令和３年度は、緊急事態宣言等による臨時休館の日数を引いて稼働日は、２５０日で算出している。